

「ザ・リッツ・カールトン、香港」、とてつもない巨大ホテルが出現したというのが私の第一印象だ。スイートを含む312の客室はすべて100階以上(102-118階)にあり、料飲部門も実に6施設を擁している。どのレストラン、バーも非常にインテリアが凝った作りでゲストの目を楽しませてくれる。これまで香港島側にあったクラシカルなリッツ・カールトンとは全く違うコンセプトの下で、今年3月29日に九龍サイドにオープンした。

ホテルは香港・西九龍の再開発地区ユニオンスクエアに立地し、商業施設、高級レジデンス、ブランド店舗を併設したInternational Commerce Centre (ICC)の上層階にある。香港の摩天楼の中でもひととき高きそびえたつ新ランドマークが誕生した訳だ。またこの再開発地区には香港島セントラルから多くの外資系金融会社に移転して来ており、広州・北京方面を結ぶ高速鉄道の起点となる新ターミナルの建設も始まった。

地上にあるホテルエントランスは9階部分にあり、ゲストはここでスタッフに案内されて103階のメインロビーへと導かれる。高速のエレベーターで到着したロビーフロアは余裕の広さで、チョコレート 테마にしたかわいらしい名称の「ザ・チョコレート・ライブラリー」から眼下にビクトリアハーバーの絶景が飛び込んで来る。ここでエレベーターを乗り換えて客室に向かうが、113階以上はクラブフロアとなっており116階にあるクラブラウンジへと案内される。

今回は117階にあるビクトリアハーバーの眺望を満喫できるジュニアスイートをアサインされた。全面ガラスのコーナー部分には三脚付きの望遠鏡が用意されており、香港島の超高層ビル群や行き交う船舶の航行を真近に望める。日本最高階を誇る横浜ロイヤルパークホテルでさえ52~67階の客室だということを考えれば約2倍の高さである。以前パークハイアット上海の90階近くの客室から眼下に望むグランドハイアットを見て感嘆の声を上げたものだが、ここではゲストは皆、高度感覚が麻痺する錯覚にとらわれる。

118階最高階にはスイミングプールが用意されている。まさに天空のプールで、大げさに言えば飛行機の中で泳いでいる不思議な感覚だ。外に出ればオープンエアのジャグジーがあり、心地よい薫風を感じながら露天風呂気分を楽しめる。また116階には11室のトリートメントルームを擁する860㎡の巨大スパ、「The Ritz-Carlton Spa by ESPA」がある。レセプションを抜けると幻想的で迷路のような回廊に導かれ、豪華なトリートメントルームに案内される。

今回は開業後まだ2カ月もたっていない時期での訪問であり、サービス面で真価を発揮できているか一抹の不安があった。しかしホテルのブローシャに書かれている「The Ladies and Gentlemen of The Ritz-Carlton, Hong Kong welcome guests...」の通り、スタッフ全員が誇りを持って真のホスピタリティを実践しており、特にクラブフロアスタッフのスキルは相当に高いものがあった。



プール脇より外に出られ、このようなオープンエアのジャグジーに浸ることができる。湯加減も良く天空の露天風呂といった風情である



118階に位置し、まさに天空のスイミングプールである。地上490mの高さで泳ぐ爽快感はまさに異次元の世界だ



116階クラブラウンジの反対側に位置する、「The Ritz-Carlton Spa by ESPA」のレセプションホール。施設の充実度はトップクラスで、スタッフのホスピタリティ感覚も秀逸だ



五重のピローやクッションを備えたキングベッドとリビングエリア。写真左側がコーナーウィンドウになっており、ここから香港島を見下ろすことができる。この部屋はクラブフロアにあるアイランドビュー・ジュニアスイートで約65㎡の広さがある

ザ・リッツ・カールトン 香港

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



地上階ロビー(9階)から見たエントランス。ゲストはここでスタッフに案内され103階のメインロビーへと、高速エレベーターでいっしょに昇って行く



103階にある「The Chocolate Library」より見下ろした南イタリア料理レストラン「Tosca」。全面的ガラスウインドウを透してビクトリアハーバーの絶景が飛び込んで来る



102階にあるオールデイダイニングの「The Lounge & Bar」。インテリアが印象的で食事もアフタヌーンティーも楽しめる。写真左手のカウンター席は夕刻からの時間帯が人気だ

ジュニアスイートの最大の見せ場は、この一面ガラスのコーナー部分だ。この部屋には三脚付きの望遠鏡が備えられていて、117階の圧倒的な高度から俯瞰するビクトリアハーバーの景観は言葉が失うほどの素晴らしい。ホテル最上階は118階までであるが、客室としてはこの117階が最高階である



ゴージャスなバスルームである。バスタブは専用レイアウトされた奥まった場所に収まり、オーバルの形状である。パウダーコーナーは直線主体の力強さがあり、右手にトイレとシャワールームがある



非常に意匠に富んだデザインのエレベーターホール。一分の隙もない計算し尽した印象を与える



「The Chef's Table」中国語で「厨師之桌」と呼ばれる特別室に入れてもらった。パティシエたちがさまざまなデザートへの仕込みをしている



116階にあるクラブラウンジ。飲み物を含めて1日に6回のフード・プレゼンテーションがある。116階の半分近くはあるうかという広大なスペースをゲストに提供している

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなくとまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel

